

やっぱり大事な CRP

タイトルの「やっぱり大事な」には、ちょっと奇異な印象を受けられるかもしれません。CRP は、特にわが国においてはかなり頻繁に検査されている炎症マーカーであり、その地位は十分に確立されています。しかし、患者をよく診ずに CRP を過信することをいさめるためでしょうか、感染症の専門家から“CRP 不要論”が提唱されたことがあります。もちろん、臨床検査はすべからず意義があつて世に出てきたもので、要はその長所短所をよく理解して使用すればよいことは論をまちません。大まかには、炎症に特異性が高く、重症度をよく表現することが長所で、病態をやや遅れて反映することが短所です。そのあたりは項目 1「CRP などの急性期蛋白の産生機序」を読むとよく理解できます。

本特集では、その他にも、感染症、膠原病、生活習慣病における CRP の使い方、POCT としての汎用性、標準化と基準範囲といった話題が網羅されています。この大事な検査に対する知識をリフレッシュしていただければ幸いです。

山田俊幸(自治医科大学臨床検査医学)